

# 令和8年 3月の住まいのきになる通信



## 手ごろな住宅 供給促進 若者・子育て世帯向け

\*国土交通省は2026~2035年度の「住生活基本計画」で、若者や子育て世帯が希望する住まいを確保できるようにする目標を盛り込みます。

\*維持管理がなされている空き家や公営住宅の空き住戸の流通を促します。

\*死亡時などに売却する前提で毎月の返済額を抑える「残価設定型」の住宅ローンを普及させます。

\*都市再生機構（UR）は、子育てしやすい住環境の団地を2035年度までに100団地の10万戸提供します。

\*住宅に求める性能として、2~3人世帯や夫婦と未就学児2人世帯向けは「40M2程度」を上回る広さと明記します。

(2026年2月17日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)





**空き家侵入盗 1万件超え 昨年、2020年に比べ3.7倍**

**郵便物などで長期不在確認 門扉に目印の置き石**

- \*空き家を狙った進入窃盗事件は2025年に11,958件。
- \*統計を取り始めた2020年以降で初めて1万件を上回り、同年比で3.7倍超。
- \*高齢の家主が入院や施設への入所で不在でも、金品や家財は残されている例があります。
- \*郵便物や庭の手入れの有無のほか、門扉の柱の上に置いた小石の状況から住人の長期不在を確認。
- \*2023年の全国の空き家は約900万戸と過去最多。
- \*このうち賃貸や売却、別荘などの目的がない空き家は約385万戸。
- \*30年で約2.5倍。
- \*離れて暮らす親族らは頻繁に訪問できず、日常的な管理が行き届かないケースがあります。
- \*管理の頻度は「月に1~数回」(34%)が最も多く、「年に1~数回」は27.6%。
- \*外観で管理が不十分なことが分かれば窃盗犯に狙われやすくなります。
- \*金品や高価な品をなるべく保管しない。窓が割られにくい防犯フィルムを貼るといった対策もあります。
- \*夜間に室内灯を自動点灯させる「見せる防犯対策」も抑止につながります。
- \*家主に代わり管理を担うサービスも。
- \*日本郵便は2025年、「郵便局の空き家みまもり」サービスを始めました。
- \*空き家管理サービスをふるさと納税の返礼品にする自治体も。  
(2026年2月17日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

